

への道」の究明について、いくつかの論文を書いた。さらに、それらを土台にして添削を行い、この新叢書の諸章をまとめ、さらに序章、第1章を書き下ろす時間を得た。

以上が可能であったのは、なんといってもこの間、横浜市立大学で研究職(客員教授)の資格を得て研究を継続でき、科研費も得られたからである。受け入れ教授の日本近現代史・本宮一男氏、受け入れ研究機関の大学院都市社会文化研究科教授会各位に謝意を表したい。

最後に、現役時代三八年間はもちろん、定年退職後も毎日研究室に通う私を全面的に支えてくれた妻美穂子に感謝し、本書をささげたい。三人の孫恵士、はな、智花が戦争と核兵器のないより良い世界に生きること资することを願いつつ。

二〇二一年三月一六日金沢八景キャンパス研究室にて(学術研究会審査を経て九月一日入稿)

永岑三千輝

文献リスト

1. 主要資料：『ナチス・ドイツによるヨーロッパ・ユダヤ人の迫害と殺戮 1933-1945』全16巻

- [VEJ] *Die Verfolgung und Ermordung der europäischen Juden durch das nationalsozialistische Deutschland 1933-1945*. Herausgegeben im Auftrag des Bundesarchivs, des Instituts für Zeitgeschichte, des Lehrstuhls für Neuere und Neueste Geschichte an der Albert-Ludwigs-Universität Freiburg und des Lehrstuhls für Geschichte Osteuropas an der Freien Universität Berlin von Susanne Heim, Ulrich Herbert, Michael Hollmann, Hosirot Möller, Gerhard Pickhan, Dieter Pohl, Simone Walther und Andreas Wirsching. München/Berlin 2008-2021, 16Bde.
- [VEJ] 1] Deutsches Reich 1933-1937, München 2008.
- [VEJ] 2] Deutsches Reich 1938-Aug. 1939, München 2009.
- [VEJ] 3] Deutsches Reich und Protektorat Sept. 1939-Sept. 1941, München 2012.
- [VEJ] 4] Polen Sept. 1939-Juli. 1941, München 2011.
- [VEJ] 5] West- und Nordeuropa 1940-Juni 1942, München 2012.
- [VEJ] 6] Deutsches Reich und Protektorat Böhmen und Mähren, Okt. 1941-Juni 1943, Berlin/Boston 2019.
- [VEJ] 7] Sowjetunion mit annektierten Gebieten 1, München 2011.

- [VE] 8] Sowjetunion mit annektierten Gebieten II, Berlin/Boston 2016.
 [VE] 9] Polen: Generalgouvernement Aug. 1941-1945, München 2014.
 [VE] 10] Polen: Eingegliederte Gebiete Aug. 1941-1945, Berlin/Boston 2020.
 [VE] 11] Deutsches Reich und Protektorat Juli 1943-1945, Berlin/Boston 2020.
 [VE] 12] West- und Nordeuropa Juli 1942-1945, Berlin/München/Boston 2015.
 [VE] 13] Slowakei, Rumänien und Bulgarien 1939-1945, Berlin/Boston 2018.
 [VE] 14] Besetztes Südosteuropa und Italien 1941-1945, Berlin/Boston 2017.
 [VE] 15] Ungarn 1944-1945, Berlin/Boston 2021.
 [VE] 16] Das KZ Auschwitz 1942-1945 und die Zeit der Todesmärsche 1944/45, Berlin/Boston 2018.

2. 関係裁判資料、同時代文献、史料集等

- [IMG] *Der Prozeß gegen die Hauptkriegsverbrecher von dem Militärgerichtshof, Nürnberg 1949*, 42 Bde. ニュルンベルク国際軍事法廷記録(主要戦犯)。
 [NMT] *Trials of War Criminals before the Nuremberg Military Tribunal under Control Council Law No.10*, Nuremberg October 1946-April 1949, 15 Vols., 1997. アメリカ軍事法廷での継続裁判：①Medical Case, I, II; ②Milch Case, II; ③Justice Case, III; ④Pohl Case, V; ⑤Flick Case, VI; ⑥I.Farben Case, VII, VIII; ⑦Hostage Case, XI; ⑧RUSHA Case IV, V; ⑨Einsatzgruppen Case, IV; ⑩Krupp Case IX; ⑪Ministries Case XII, XIII, XIV;

⑫High Command Case, X, XI, XV.

Domarus, Max [1973] *Hitler. Reden 1932 bis 1945*, 2Bde. Kommentiert von einem deutschen Zeitgenossen, Wiesbaden. ニトロー演説集。

Hitler's Innermost Circle. The Secret Recordings at Farn Hall. Annoted by Jeremy Bernstein, 2001.

Speer, Albert [1981] *Der Scheiternstakt: meine Auseinandersetzung*, Stuttgart.

Wildt, Michael (Hrsg.) [1995] *Die Judapolitik des SD 1935 bis 1938: Eine Dokumentation*, München.

ヴァンゼー会議記念館 [2015] 『資料を見て考えるホロコーストの歴史——ヴァンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策(横浜市立大学新叢書8)』山根徹也・清水雅大訳、春風社。

尾崎秀実 [2003] 『ゾルゲ事件 上申書』岩波現代文庫。

カブラン、ハイム・A [1993, 1994] 『ワルシャワ・ゲッター日記』(上)(下)、編・英訳者アブラハム・I・キヤッチ、松田直成訳、風行社。

ケインズ、J・M [1977] 『平和の経済的帰結(ケインズ全集2)』早坂忠訳、東洋経済新報社。

クレンペラー、ヴィクトール [1974] 『第三帝国の言語「LTI」——ある言語学者のノート』法政大学出版局。

シャハト、H [1955] 『我が生涯』上、下、永川秀男訳、経済批判社。

ゼークト、フォン [2018] 『一軍人の思想』篠田英雄訳、岩波新書。

ゾルゲ、リヒアルト (2003) 『ゾルゲ事件獄中手記』岩波現代文庫。

デイミトロフ、ゲオルギ [1972] 『デイミトロフ選集』第2巻、デイミトロフ選集編集委員会編訳、大月書店。

ヒトラー、アドルフ [1973] 『わが闘争』平野一郎・将積茂訳、角川書店。

—— [2004] 『続・わが闘争——生存圏と領土問題』平野一郎訳、角川書店／『ヒトラー第二の書』立木勝訳、成甲書房。

—— [2000] 『ヒトラーの作戦指令書』ヒュー・トレヴァーローパー編、滝川義人訳、東洋書林。

—— [1994] 『ヒトラーのテーブル・トーク』上、下、ヒュー・トレヴァーローパー解説、吉田八峯訳、三交社。

—— [1991] 『ヒトラーの遺言——記録者マルティン・ボアマン』篠原正瑛訳、原書房。
ヘス、ルドルフ [1999] 『アウシュヴィッツ収容所』片岡啓治訳、講談社。

ホブスン [1952] 『帝国主義論』上、下、矢内原忠雄訳、岩波文庫。

ミード、ブラドカ [1992] 『ワルシャワ・ゲッター 1942～1945』エリ・ヴィーゼル序文、滝川義人訳、クブ書房、グリーンピース出版会。

モチャルスキ、カジミエシュ [1983] 『死刑執行人との対話』小原雅俊訳、恒文社。

ラング(編)、ヨッヘン・フォン [2017] 『アイヒマン調書——ホロコーストを可能にした男』小俣和一郎訳、岩波書店。

ランズマン、クロード [1995] 『シヨアー』高橋武智訳、作品社。

リンゲルブルム、エマヌエル『ワルシャワ・ゲッター』大島かおり、入谷敏男訳、みずず書房。

ルーデンドルフ、エーリヒ [2015] 『総力戦』伊藤智央訳・解説、原書房。

レーニン [1961] 『帝国主義』宇高基輔訳、岩波文庫。

レビン、アブラハム [1993] 『涙の杯——ワルシャワ・ゲッターの日記』A・ポロンスキー編、滝川義人訳、影書房。

3. 永岑著作・論文

[1982] 「第三帝国における「国家と経済」——ヒトラーの思想構造にそくして」遠藤輝明編『国家と経済——フランス・ドイツ主義の研究』東京大学出版会。

[1983] 「第三帝国における国家と経済——化学工業独占体イ・ゲ・ファルベン社とオーストリア併合」立正大学西洋史研究室『政治と思想——村瀬興雄先生古稀記念西洋史学研究論叢』。

[1988] 「第三帝国のチェコスロヴァキア共和国解体とイ・ゲ・ファルベン社」廣田功・奥田央・大沢真理編『転換期の国家・資本・労働——両大戦間の比較史的研究』東京大学出版会。

[1989] 「ズデーテン問題の発生と展開——民族問題と地域・国家、権力政治との関連で」立正大学『経済学季報』39-3。

[1990] 「民族問題と地域・国家——国際的権力政治とズデーテン問題」同上:39-4。

[1992] 「地域・民族・国家——両大戦間のズデーテン問題」遠藤輝明編『地域と国家——フランス・レジオ

ナリスムの研究』日本経済評論社。

- [1994] 『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』同文館。
- [2001] 『独ソ戦とホロコースト』日本経済評論社。
- [2003] 『ホロコーストの力学——独ソ戦・世界大戦・総力戦の弁証法』青木書店。
- [2004] 『ホロコーストの論理と力学——総力戦敗退過程の弁証法』『横浜国立大学論叢』社会科学系列553。
——・廣田功編著 [2004] 『ヨーロッパ統合の社会史——背景・論理・展望』日本経済評論社。
- [2005] 『総力戦とプロテクトラートの「ユダヤ人問題」』同上、人文科学系列563。
- [2006] 『東ガリツィアにおけるホロコーストの展開』関東学院大学経済学会『経済系』227。
- [2007a] 『特殊自動車とは何か——移動型ガス室の史料紹介』『横浜国立大学論叢』社会科学系列563。
トランスポート・オートモビル
- [2008] 『独ソ戦・世界大戦の展開とホロコースト』『ロシア史研究』第82号。
- [2009a] 『ナチス・ドイツと原爆開発』『横浜市立大学論叢』人文科学系列、60-1。
- [2009b] 『ハイゼンベルクと原爆開発』同上、社会科学系列、60-2-3。
- [2010] 『ハイゼンベルク・ハルナックハウス演説の歴史的意味——ホロコーストの力学との関連で』同上、人文科学系列、61-3。
- [2011] 『ホロコーストとヨーロッパ統合——二つの対極的論理と史的力学』同上、人文科学系列、62-3。
- [2019a] 『第三帝国の膨張政策とユダヤ人迫害・強制移送 1938——最近の史料集による検証』同上、社会科学系列、70-2。

- [2019b] 『航空機開発戦略と国際主義——ユンカースとデートマンの闘い』同上、71-1。
- [2020] 『第三帝国の膨張政策とユダヤ人迫害・強制移送 1938-1939』同上、71-2。
- [2021a] 『第三帝国の戦争政策とユダヤ人迫害——ポーランド 1939年9月～1941年6月』同上、72-1。
- [2021b] 『第三帝国のソ連征服政策とユダヤ人迫害・大量射殺拡大過程——占領初期 1941年6月～9月を中心に』同上、人文科学系列、72-3。
- [2021c] 『「ユダヤ人問題の最終解決」——世界大戦・総力戦とラインハルト作戦』同上、社会科学系列、72-2・3。
- [2021d] 『第三帝国の全面的敗退過程とアウシュヴィッツ 1942-1945』同上、73-1。

4. 文献抜粋（本文中引用・言及文献を中心に。2001年までの文献については永年2001参照された。）

- Benz, Wolfgang/Grannl, Hermann /Weiß, Hermann (Hrsg.) [2000] *Enzyklopädie des Nationalsozialismus*. Berlin.
- Harrison, Mark [1996] *Accounting for War. Soviet production, employment, and the defence burden 1940-1945*. Cambridge University Press.
- Hert, Benjamin Carter [2014] *Der Reichstagsbrand. Wiederentdeckung eines Verfahrens*. Aus dem Englischen von Karin Hiescher, Reinbek bei Hamburg.
- Hilber, Raul [1981] *Sonderzüge nach Auschwitz*.
- Hilger, Andreas [2000] *Deutsche Kriegsgesangene in der Sowjetunion 1941-1956. Kriegsgesangenenpolitik, Lageralltag und Erinnerung*.

伊藤定良 [2017] 『近代ドイツの歴史とナショナリズム・マイノリティ』有志舎。
上杉忍 [2013] 『アメリカ黒人の歴史——奴隷貿易からオバマ大統領まで』中公新書。

—— [2019] 『ハリエット・タブマン——「モーゼ」と呼ばれた黒人女性』新曜社。

ヴァーグナー、パトリック [2020] 「入植と大量虐殺による「ドイツ民族」の創造——「東部総合計画」と学術的民族研究」石田勇治・川喜田敦子編 [2020] 『ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ——現代ドイツへの視座・歴史学的アプローチ2』第五章、勉誠出版。

ヴァインケ、アンネッテ [2015] 『ニュルンベルク裁判——ナチ・ドイツはどのように裁かれたのか』板橋拓己訳、中公新書。

ヴェレンベルク、サムエル [2015] 『トレブリンカ叛乱——死の収容所で起こったこと 1952』近藤康子訳、みすず書房。

榎本珠良編著 [2017] 『国際政治史における軍縮と軍備管理——19世紀から現代まで』日本経済評論社。

大木毅 [2019] 『独ソ戦——絶滅戦争の惨禍』岩波新書。

大野英二 [2001] 『ナチ親衛隊知識人の肖像』未來社。

大森弘喜 [2014] 『フランス公衆衛生史——19世紀パリの疫病と住環境』学術出版会。

奥田央 [1990] 『コルホーズの成立過程——ロシアにおける共同体の終焉』岩波書店。

—— [1996] 『ヴォルガの革命——スターリン統治下の農村』東京大学出版会。

小野塚知二 [2004] 『ナショナル・アイデンティティという奇跡——二つの歌に注目して』永岑 [2004]

『ヨーロッパ統合の社会史——背景・論理・展望』永岑三千輝・廣田功共編、日本経済評論社。
——編 [2014] 『第一次世界大戦開戦原因の再検討——国際分業と民衆心理』岩波書店。

小野寺拓也 [2012] 『野戦郵便から読み解く「ふつうのドイツ兵」——第二次世界大戦末期におけるイデオロギーと「主体性」』山川出版社。

小原雅俊・松家仁共編訳 [1997, 1998] 『論争・ポーランド現代史の中の反ユダヤ主義』資料集』東京外国語大学海外事情研究所。

オルトナー、ヘルムート [2017] 『ヒトラーの裁判官フライスラー』須藤正美訳、白水社。

カーシヨー、イアン [2015/2016] 『ヒトラー 上・傲慢/下・天罰』石田勇治監修・川喜田敦子・福永美和子訳、白水社。

カルツォヴィツチュ、エルニ [1990] 『橋——ユダヤ混血少年の東部戦線』増谷英樹/小沢弘明訳、平凡社。

川喜田敦子 [2019] 『東欧からのドイツ人の「追放」——二〇世紀の住民移動の歴史のなかで』白水社。

菅野賢治 [2021] 『「命のヴィザ」言説の虚構——リトアニアのユダヤ難民に何があったのか?』共和国。

北村厚 [2014] 『ヴァイマル共和国のヨーロッパ統合構想——中欧から拡大する道』ミネルヴァ書房。

北村陽子 [2021] 『戦争障害者の社会史——20世紀ドイツの経験と福祉国家』名古屋大学出版会。

木畑和子 [2015] 『ユダヤ人児童の亡命と東ドイツへの帰還——キンダートランスポートの群像』ミネル

ヴァ書房。

木畑洋一編著 [2007] 『現代世界とイギリス帝国(イギリス帝国と20世紀 第5巻)』ミネルヴァ書房。

—— [2014] 『二〇世紀の歴史』岩波新書。

—— [2016] 『チャーチル——イギリス帝国と歩んだ男』山川出版社。

木村靖二 [1988] 『兵士の革命——1918年ドイツ』東京大学出版会。

キユネ、トーマス/ツイーマン、ベンヤミン [2017] 『軍事史とは何か』中島浩貴ほか訳、原書房。

ギルバート、マーチン [1995] 『ホロコースト歴史地図 1918-1948』滝川義人訳、東洋書林。

工藤章 [2011] 『日独経済関係史序説』桜井書店。

—— [2021, 2022] 『20世紀日独経済関係史 I 国際定位』『同 II 企業体制』日本経済評論社。

熊野直樹 [2020] 『麻薬の世紀——ドイツと東アジア一八九八—一九五〇』東京大学出版会。

—— 田嶋信雄・工藤章 [2021] 『ドイツⅡ東アジア関係史一八九〇—一九四五——財・人間・情報』九州大学出版会。

クリフォード、レベッカ [2021] 『ホロコースト最年少生存者たち——100人の物語からたどるその後の

生活』山田美明訳、芝健介監修、柏書房。

クレンペラー、ヴィクトール [1999] 『私は証言する——ナチ時代の日記 1933-1945年』小川一

ケ里美/宮崎登訳、大月書店。

黒澤隆文(編訳) [2010] 『中立国スイスとナチズム——第二次大戦と歴史認識』川崎亜紀子・尾崎麻弥子・

穂山洋子訳著、京都大学学術出版会。

解良澄雄 [2011] 『ホロコーストと「普通」のポーランド人——1941年7月イエドヴァブネ・ユダヤ人

虐殺事件をめぐる現代ポーランドの論争』『現代史研究』57巻。

ゲルヴァルト、ロベルト [2016] 『ヒトラーの絞首人ハイドリヒ』宮下嶺夫訳、白水社。

—— [2020] 『史上最大の革命——1918年11月、ヴァイマル民主政の幕開け』みすず書房。

ケルブレ、ハルトムート [2014] 『冷戦と福祉国家——ヨーロッパ 1945〜89年』永岑三千輝監訳、瀧

川貴利・赤松廉史・清水雅大訳、日本経済評論社。

ゴールドハーゲン、ダニエル [2007] 『普通のドイツ人とホロコースト——ヒトラーの自発的死刑執行人た

ち』望田幸男監訳、北村浩・土井浩・高橋博子・本田稔訳、ミネルヴァ書房。

コンクエスト、ロバート [2007] 『悲しみの収穫——ウクライナ大飢饉 スターリンの農業集団化と飢饉テ

ロ』白石治朗訳、恵雅堂出版。

権上康男 [1985] 『フランス帝国主義とアジア——インドシナ銀行史研究』東京大学出版会。

佐藤健生・ノルベルト・フライ編 [2011] 『過ぎ去らぬ過去との取り組み——日本とドイツ』岩波書店。

シヴェルプシュ、W [2015] 『三つの新体制——ファシズム、ナチズム、ニューディール』小野清美・原田一

美訳、名古屋大学出版会。

ジェラテリー、ロバート [2008] 『ヒトラーを支持したドイツ国民』根岸隆夫訳、みすず書房。

芝健介 [2008] 『武装親衛隊とジェノサイド——暴力装置のメタモルフオーゼ』有志舎。

—— [2008b] 『ホロコースト——ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書。

—— [2015] 『ヒュンベルク裁判』岩波書店。

—— [2021] 『ヒトラー——虚像の独裁者』岩波新書。

シユタングネト、ベッティーナ [2021] 『エルサレム(以前)のアイヒマン——大量殺戮者の平穏な生活』香月恵里訳、みすず書房。

清水雅大 [2018] 『文化の枢軸——戦前日本の文化外交とナチ・ドイツ』九州大学出版会。

清水正義 [2011] 『人道に対する罪』の誕生——ニュルンベルク裁判の成立をめぐる(白鷗大学法政策研究 究所叢書3)』丸善ブライネット。

鈴木健夫 [2021] 『ロシアドイツ人——移動を強いられた苦難の歴史』亜紀書房。

相馬保夫 [2004-2016] 『離散と抵抗』(1)～(17)『東京外国語大学論集』69-93。

ターナー・ジュニア、H・A [2015] 『独裁者は30日で生まれた——ヒトラー政権誕生の真相』関口宏道訳、白水社。

武井彩佳 [2021] 『歴史修正主義——ヒトラー賛美・ホロコースト否定論から法規制まで』中公新書。

高田馨里編著 [2020] 『航空の二〇世紀——航空熱・世界大戦・冷戦(明治大学国際武器移転史研究所研究 叢書5)』日本経済評論社。

竹内真人編著 [2019] 『ブリティッシュ・ワールド——帝国紐帯の諸相(明治大学国際武器移転史研究所研究 究叢書3)』日本経済評論社。

田嶋信雄 [2013] 『ナチス・ドイツと中国国民政府——一九三三—一九三七』東京大学出版会。

——・工藤章 [2017] 『ドイツと東アジア一八九〇——一九四五』東京大学出版会。

——・田野大輔編著 [2021] 『極東ナチス人物列伝——日本・中国・「満州国」に蠢いた異端のドイツ人たち』作品社。

垂水節子 [2002] 『ドイツ・ラディカリズムの諸潮流——革命期の民衆1916～1921年』ミネルヴァ書房。

チェア、ニコラス／ウィリアムズ、ドミニク [2019] 『アウシュヴィッツの巻物 証言資料』二階宗人訳、みすず書房。

富田武 [2020] 『日ソ戦争1945年8月——棄てられた兵士と居留民』みすず書房。

中嶋毅 [2017] 『スターリン——超大国の独裁者』山川出版社。

長田浩彰 [2011] 『われらユダヤ系ドイツ人——マイノリティから見たドイツ現代史 1893-1951』広島大学出版会。

中野智世・木畑和子・梅原秀元・紀愛子 [2021] 『価値を否定された人々——ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」』新評論。

中村綾乃 [2010] 『東京のハーケンクロイツ——東アジアに生きたドイツ人の軌跡』白水社。

永原陽子(編) [2009] 『植民地責任』論——脱植民地化の比較史』青木書店。

永山のどか [2012] 『ドイツ住宅問題の社会経済史的研究——福祉国家と非営利住宅建設』日本経済評論社。

奈倉文二・横井勝彦・小野塚知一 [2003] 『日英兵器産業とジーマンス事件——武器移転の国際経済史』日本経済評論社。

——・横井勝彦編著 [2005] 『日英兵器産業史——武器移転の経済史的研究』日本経済評論社。

ニーヴン、ビル [2020] 『ヒトラーと映画——總統の秘められた情熱』若林美佐知訳、白水社。

熱川容子 [2002] 『ヒトラー神話』の形成と新聞統制——1934年の「フェルキツシャー・ベオバター」を中心に——『ヨーロッパ文化史研究』3。

—— [2006] 『1933年の新聞における「ヒトラー崇拜」宣伝——「フェルキツシャー・ベオバター」における世論操作を中心として』『ヨーロッパ文化史研究』8。

ニコラス、リン・H. [2018] 『ナチズムに囚われた子どもたち——人種主義が踏みにじった欧州と家族』上、下、若林美佐知訳、白水社。

西牟田祐二 [2020] 『語られざるGM社——多国籍企業と戦争の試練』日本経済評論社。

野村真理 [1999] 『ウィーンのユダヤ人——一九世紀末からホロコースト前夜まで』御茶の水書房。

—— [2008] 『ガリツィアのユダヤ人——ポーランド人とウクライナ人のはざままで』人文書院。

バーリー、M/Vイッパーマン、W. [2001] 『人種主義国家ドイツ——1933-45』柴田敬二訳、刀水書房。

馬場哲 [2016] 『ドイツ都市計画の社会経済史』東京大学出版会。

原朗 [2013] 『日本戦時経済研究』東京大学出版会。

—— [2013] 『満州経済統制研究』東京大学出版会。

バルハフティク、ゾラフ [2014] 『日本にきたユダヤ難民——ヒトラーの魔手を逃れてノースの地への長い旅——』滝川義人訳、原書房。

鳩澤歩 [2018] 『鉄道人とナチス——ドイツ国鉄総裁ユリウス・ドルプミュラーの二十世紀』国書刊行会。

—— [2021] 『ナチスと鉄道——共和国の崩壊から独ソ戦、敗亡まで』NHK出版新書。

阪東宏 [2002] 『日本のユダヤ人政策1931-1945——外交史料館文書「ユダヤ人問題」から』未來社。

樋口隆一編著 [2020] 『陸軍中将樋口季一郎の遺訓——ユダヤ難民と北海道を救った将軍』勉誠出版。

ヒルバーグ、ラウル [2012] 『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅(上・下)』望田幸男・原田一美・井上茂子訳、柏書房。

廣田功 [1994] 『現代フランスの史的形成——両大戦間期の経済と社会』東京大学出版会。

—— 編 [2009] 『欧州統合の半世紀と東アジア共同体』日本経済評論社。

福澤直樹 [2012] 『ドイツ社会保険史——社会国家の形成と展開』名古屋大学出版会。

藤原辰史 [2012] 『ナチスのキッチン——「食べること」の環境史』水声社。

藤本建夫 [2008] 『ドイツ自由主義経済学の生誕——レプケと第三の道』ミネルヴァ書房。

ブラウニング、クリストファー [1997] 『普通の人びと——ホロコーストと第101警察予備大隊』谷喬夫訳、筑摩書房。

フランク、ロベール [2003] 『欧州統合史のダイナミズム——フランスとパートナー国』廣田功訳、日本経済評論社。

フリードリヒ、イェルク [2011] 『ドイツを焼いた戦略爆撃1940-1945』香月恵里、みすず書房。

フレヴニェーク、オレック・V [2021] 『スターリン——独裁者の新たな伝記』石井規衛訳、白水社。

不破哲三 [2014-2016] 『スターリン秘史』1〜6、新日本出版社。

ベルクハーン、フォルカー [2014] 『第一次世界大戦——1914-1918 (東海大学文学部叢書)』鍋谷郁太郎訳、東海大学出版部。

ヘルベルト、ウルリッヒ [2002] 「ホロコースト研究の歴史と現在」永岑三千輝訳『横浜市立大学論叢』社会科学系列、53-1。

—— [2021] 『第三帝国——ある独裁の歴史』小野寺拓也訳、角川新書。

ホフマン、エヴァ [2019] 『シュテットル——ポーランド・ユダヤ人の世界』小原雅俊訳、みすず書房。

ポリアコフ、レオン [2005-2007] 『反ユダヤ主義の歴史』全5巻、菅野賢治ほか訳、筑摩書房。

マウル、ハインツ・エーバーハルト [2004] 『日本はなぜユダヤ人を迫害しなかったのか——ナチス時代のハルビン・神戸・上海』黒川剛訳、芙蓉書房出版。

牧野雅彦 [2009] 『ヴェルサイユ条約——マックス・ウェーバーとドイツの講和』中公新書。

—— [2012] 『ロカルノ条約——シュトレゼマンとヨーロッパの再建』中央公論新社。

—— [2020] 『不戦条約——戦後日本の原点』東京大学出版会。

松井康浩／中島毅(編) [2017] 『スターリニズムという文明(ロシア革命とソ連の世紀2)』岩波書店。

三宅立 [2001] 『ドイツ海軍の熱い夏——水兵たちと海軍将校団1917年(歴史のフロンティア)』山川出版社。

三宅正樹 [2007] 『スターリン、ヒトラーとソ独伊連合構想』朝日新聞社。

ミュールホイザー、レギーナ [2015] 『戦場の性——独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』姫岡とし子監訳、岩

波書店。

ミュンツェンベルク、ヴィリー [1995] 『武器としての宣伝』星乃治彦訳、柏書房。

モッセ、ジョージ・L [1998] 『フェルキツシュ革命——ドイツ民族主義から反ユダヤ主義へ』植村和秀／

大川清丈／城達也／野村耕一訳、柏書房。

モムゼン、ハンス [2001] 『ヴァイマル共和国史——民主主義の崩壊とナチスの台頭』関口宏道訳、水声社。

百瀬宏 [2011] 『小国外交のリアリズム——戦後フィンランド1944-1948年』岩波書店。

柳澤治 [2013] 『ナチス・ドイツと資本主義——日本のモデルへ』日本経済評論社。

—— [2017] 『ナチス・ドイツと中間層——全体主義の社会的基盤』日本経済評論社。

—— [2021] 『転換期ドイツの経済思想——経済史の観点から』日本経済評論社。

矢野久 [2004] 『ナチス・ドイツの外国人——強制労働の社会史』現代書館。

山井敏章 [2017] 『計画』の20世紀——ナチズム・ヘモデルネ・国土計画』岩波書店。

山口定 [2006] 『ファシズム』岩波現代文庫。

山本秀行 [1995] 『ナチズムの記憶——日常生活からみた第三帝国』山川出版社。

横井勝彦・小野塚知二編 [2012] 『軍拡と武器移転の世界史——兵器はなぜ容易に広まったのか』日本経済

評論社。

——編著 [2014] 『軍縮と武器移転の世界史——「軍縮下の軍拡」はなぜ起きたのか』日本経済評論社。

ロシア帝国…179-181

【わ】

ワイマール憲法…21, 24, 26, 276

『わが闘争』…15, 23, 29, 32, 51, 98,
120, 122, 167, 190

ワルシャワ・ゲットー…15, 161,
227, 258, 261, 267, 275

【アルファベット】

SD…→親衛隊保安部

【数字】

11月革命…21-22

1918年シンドローム…21

——編著 [2016] 『航空機産業と航空戦力の世界的転回（明治大学国際武器移転史研究所研究叢書1）』
日本経済評論社。

ラカー、ウォルター（編） [2003] 『ホロコースト大事典』井上茂子・木畑和子・芝健介・長田浩彰・永岑三
千輝・原田一美・望田幸男訳、柏書房。

リー、ダニエル [2021] 『SS将校のアームチェア』庭田よう子訳、みすず書房。

リーヴィー、エリック [2000] 『第三帝国の音楽』望田幸男監訳、田野大輔／中岡俊介訳、名古屋大学出版
会。

ワインバーグ、ゲアハート・L [2020] 『第二次世界大戦（シリーズ戦争学入門）』矢吹啓訳、創元社。

和田春樹 [2009, 2010] 『日露戦争——起源と開戦』上・下、岩波書店。

渡辺尚 [2019] 『エウレギオ——原経済圏と河のヨーロッパ』京都大学学術出版会。